

# Local Area News

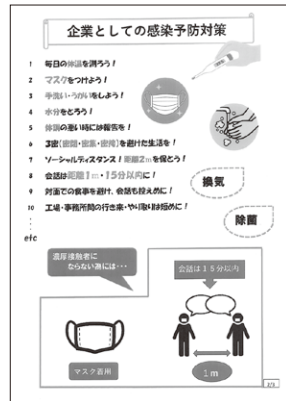
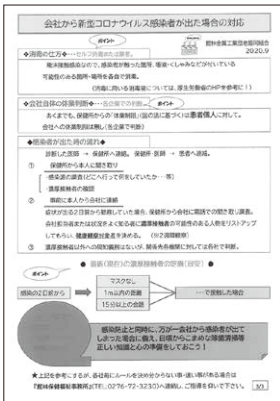
## コロナ感染防止対策

チラシ作成  
館林機械金属工業(協)  
館林金属工業団地(協)

両組合が連携し、新型コロナウイルス感染防止対策を呼び掛けるチラシを共同で作成、各組合員に配付した。

チラシは、経営者・従業員が正確な基礎知識や最新の知見を共有し、正しく恐れることが重要と考え、館林保健福祉事務所のアドバイザーを受けながら作り上げた。

作成したチラシはA4サイズで3種類。内容としては、主に従業員に向けた感染予防対策や濃厚接触者の定義等を図やイラストを交



感染予防・対応策を記載したチラシ(3種類)

えて分かりやすく記載し、各社がスムーズに感染予防体制を整えるときに役立つものとなっている。

外国人技能実習生を受け入れている組合員からはベトナム語に対応したチラシ作成の要望があるため、今後は多言語に対応したチラシを関係機関と協力して作成する予定。

## デジタル技術を活用し、見本市を開催

見本市を開催  
桐生織物(協)

10月8日・9日の両日、東京都・原宿の「WITH HARBOR CUBE」において、来年の秋冬物向け洋装生地の見本市を行い、組合員10社が出展。

今回は、コロナ禍のためオンラインで参加した組合員もあり、来場したバイヤーが会場内に設置されたパソコンを通じて、桐生市内の企業と商談する様子が見られた。

また、都合で会場に来られない取引先等に対しては、パソコンのカメラを使って、会場内に展示された生地を紹介するなど、従来にない試みが行われた。



パソコンのカメラを使って生地を紹介



QRコードを活用し、展示品を詳しく説明(上)

デジタルサイネージを使って動画による会場案内を行う(右)



会場設営においても工夫を凝らし、展示品の近くに掲示したQRコードをスマホで読み取れば、生地の使用方法・製作風景などが確認できるほか、会場入口では、デジタルサイネージに動画を流して会場案内を行った。

こうしたデジタル技術を活用した見本市の取組みは、組合内外に注目され、今後の展示会の運営スタイルに好影響を及ぼすことが期待されている。

# LAW

## 「お肉の祭典」に出展

高崎食肉事業(協)  
群馬テリカ食品(協)  
渋川食肉事業(協)

10月24日・25日の両日、前橋市・

前橋中央イベント広場において開催された「群馬お肉の祭典M-I-N」に、組合関連企業3社が出展。自社の商品PRを兼ねて肉業界の元気をアピールした。

今回は、県の「ニューノーマル創出支援事業費補助金」を活用し開催。例年より規模を縮小したほか、完全予約制、2時間ごとに来場者を入れ替える3部制を採用するなど、新型コロナウイルス感染拡大防止に最大限配慮した。

爽やかな秋晴れの下、来場者は



㈱昭和食品(群馬テリカ食品(協)所属)  
国産炭火焼鳥やアメリカンドッグを提供



㈱オルビス(高崎食肉事業(協)所属)  
ホルモンの味付はタレと塩の2種類

各社自慢の肉料理に舌鼓を打った。

## 「ものづくり体感事業」に

参加

群馬県室内装飾事業(協)



鳥山畜産食品(協)所属  
県産食材のみで作ったすき焼きが看板商品

11月6日、前橋市・天川小学校において実施された「ものづくり体感事業」に参加した。

この事業は、(一社)群馬県技能士会連合会と群馬県職業能力開発協会が共催して実施。ものづくりの魅力や楽しさを児童に知ってもらうと、「技能士」の資格を持つ熟練職人が出前授業を行った。

コロナ禍にあることを考慮し、マスク着用の徹底や教室での3密回避など対策を講じて実施した。



パズルづくりに真剣に取り組む児童



完成した作品

当日は、「建築板金」、「和裁」、「表具」、「内装仕上げ」の4部門の授業が行われ、当組合では「内装仕上げ」の授業を担当。天川小学校の5年生のうち19名が参加した。8名の技能士の手助けを得ながら、フロアタイルなどで作られる「マジックパズル」を完成させた。